

# 日本語とアラビア語の母語場面における依頼会話

## ー金銭及び時間の負担度による違いー

ヤズィード ナーセル(東海大学院文学研究科日本文学科博士課程後期)

### 1. はじめに

平成 29 年, 日本・サウジアラビアビジョン 2030 が策定されたことによって両国間の幅広い分野で協力プロジェクトが今後一層進展するものと期待される。現在, ビジネスや文化などの様々な交流が続いているが, 今後は両国間の人的交流もこれまで以上に増えると考えられる。筆者は 2018 年からキングサウド大学で日本語・日本文化・翻訳などの授業をサウジアラビア人の大学生に教えてきた。日本への留学も 4 年以上経っているため, これまで数々のサウジアラビア人と日本人の交流を見てきた。将来, サウジアラビアに帰国し, キングサウド大学で講師として勤めながら, 日本人とサウジアラビア人のミスコミュニケーションになるような問題について, 見つめていきたいと思う。

### 2. 先行研究と本研究の課題

Ayman Tawalbeh & Emran Al-Oqaily (2012)はサウジアラビア人とアメリカ人, それぞれ 30 人を対象に 12 場面から構成される談話完成テスト (DCT) を使用して, 間接的な依頼とポライトネスの比較を行っている。サウジアラビア人の調査対象者は Brown and Levinson's (1978 and 1987) と Leech's (1983)が提唱した「間接的な依頼は多ければ多いほど, 礼儀正しい」という結果ではなく, 直接的な依頼のほうが好ましいと考えていた。このことは接続性, 親密さ, 友情, 所属グループを示すものであるとしている。

張 (2004) はロールプレイによる日本語と中国語の依頼会話の好ましい展開パターンを分析した結果, 「中国語の場合, 被依頼者は積極的に相手との距離を縮めようとしているのに対し, 日本語の場合, 相手との距離を保ったままに会話が進められている」(p. 12) と指摘している。

上の先行研究の日本人の特徴から考えると, 日本人は相手との距離を保ったまま会話を進めようとする傾向があるのに対して, サウジアラビア人は, 持続性, 親密さ, 友情を表すために相手と直接的に依頼を行う傾向があるということである。サウジアラビア人は日本人の相手に親密さ, 親しみの意味が入った直接的な依頼をしてしまうと, 日本人からは図々しいなどと思われる可能性があると考えられる。一方, 日本人はサウジアラビア人からは, 「積極的に距離を縮めようとしているのにも関わらず, 「なぜ, 親しくなろうと思ってくれないのか」という疑問が持たれやすいと考えられる。そこで, 両母語場面の依頼会話を比較することは, 誤解を防ぐために重要な意味があると思われる。本研究の課題としては, 次の二つを挙げる。

- ① 母語場面における日本人とサウジアラビア人の依頼談話を構成する意味公式を明らかにする
- ② 母語場面における日本人とサウジアラビア人の依頼談話を構成する意味公式の出現順序を明らかにする。

### 3. 研究方法

日本人とサウジアラビア人の大学生の親友同士が, 金銭及び時間の貸借において, 発話にどのような意味公式が用いられるのかを談話完成テストを用いてデータ収集を行い, 分析を行った。金銭及び時間を選んだ理由は, 日常生活の親友との関係の中で比較的頻繁に遭遇する場面だと考えられるからである。加えて, 金銭や時間は数量的に表せるので, 条件間の違いが調査協力者にもわかりやすいと考えた。

場面設定に関して, 金銭及び時間の依頼場面のそれぞれ負担度を変え, 以下のような四つの場面に分けた。そして, それぞれの場面における依頼側の談話の出現順序についての分析を行う。

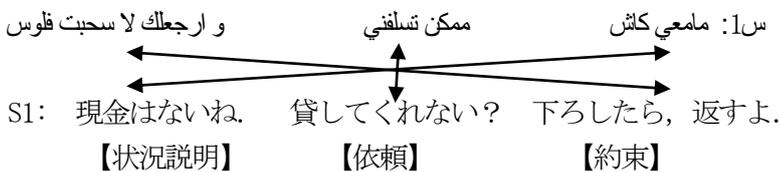
- ① (金・小): 親友に 500 円 (15 リヤル) を借りる場面。
- ② (金・大): 親友に 10,000 円 (300 リヤル) を借りる場面。

- ③ (時・小)： 親友に5分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。
- ④ (時・大)： 親友に30分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

日本人の調査対象者は2020年1月に、関東圏にあるT大学で47名の大学生のデータを収集した。一方、サウジアラビア人は2020年3月に、サウジアラビアにある国立大学の学部生53名のデータを収集した。また、談話完成テストはネット上で実施された。

#### 4. 分析方法

収集したデータは発話機能によって、意味公式の分類を行った。意味公式は池田他(2002)、徐(2007a)を参考に分類した。以下の例のように、「現金はないね」という発話は、依頼者がそこで自分の状況を説明するから、【状況説明】という意味公式に分類した。次に「貸してくれない?」という発話は【依頼】になるが、最後に、「下ろしたら、返すよ」という発話は【約束】に分類した。尚、サウジアラビア人調査対象者から収集したアラビア語のデータは最初に日本語に訳し、発話機能によって、分類した。アラビア語は右から左へ書かれる言葉なので、目印で示したように翻訳が真逆になっている。



#### 5. 結果と考察

ページ数の関係で、結果を四つの点に絞り、提示する。

表1 日本人とサウジアラビア人の最も多い出現順序と使用率

場面	日本人	サウジアラビア人
金・小	① 約束—依頼 (31.8%) ② 依頼 (22.7%)	① 依頼—約束 (35.5%) ② 状況説明—依頼—約束 (20%)
金・大	① 約束—依頼 (37.2%) ② 謝罪—依頼 (20.9%)	① 依頼—約束 (32.5%) ② 相手への配慮—依頼—約束 (13.9%)
時・小	① 依頼 (35.5%) ② 状況説明—依頼 (24.4%)	① 依頼 (42%) ② 依頼—実行しやすさの強調 (22%)
時・大	① 状況説明—依頼 (26.6%) ② 謝罪—状況説明—依頼 (13.3%)	① 状況説明—依頼 (24.4%) ② 相手への配慮—依頼 (18.3%)

① 表1によれば、金銭の場面において、次の例のように、日本人は【約束—依頼】という順番で貸借の発話を行う傾向があった反面、サウジアラビア人は【依頼—約束】という意味公式の出現順序が逆になっていることが分かった。

J18: 後で返すから、 500円貸してくれない?  
           【約束】                  【依頼】

س29: ممكن سلف ١٥ ريال واحوله لك

S29: 15リヤルを貸してくれない? 後で振り込むから.

【依頼】

【約束】

② 負担度が大きい場面に、日本人は依頼の前置きに【謝罪】の意味公式を多く用いていることが観察された。一方、次の例のように、サウジアラビア人は依頼の前置きに「今、時間があれば,...」や「無理はなければ,...」などのように、【相手への配慮】を表してから、依頼をする傾向があった。

س35: اذا ما عليك أمر ممكن تكتب ذا الاستينان

S35: 無理なければ、このアンケートに答えてもらっていい?

【相手への配慮】

【依頼】

これは、サウジアラビア人が謝罪の気持ちを持っていないということではなく、サウジアラビア人は日本人に比べ、直接的な謝罪表現を使用せず、【相手への配慮】の表現を間接的な【謝罪】の気持ちとして使用していると考えられる。

③ サウジアラビア人の依頼は例えば「私の分を払ってください」や「お金をください」などのように、貸し借りを直接表す動詞は使用しない傾向が特徴的であった。

④ サウジアラビア人の大学生は依頼の後ろに「月末報酬が入ったら、お金を返す」という発話が多かった。これはサウジアラビアの国立大学では毎月日本円で35,000円を報酬として全ての学生口座に振り込んでいるからだと思われる。

以上のように、日本人とサウジアラビア人の依頼会話の出現順序に焦点を当て、様々な相違点が現れた。サウジアラビア人は「依頼」をしてから、「約束」をする。加えて、「相手への配慮」を「謝罪」の代わりに使用する。また、直接的な貸借表現はあまり使用しないということが分かった。Ayman Tawalbeh & Emran Al-Oqaily (2012)ではサウジアラビア人は直接的な依頼が好ましく、これは相手との親密さを示すと主張している。本研究にも、サウジアラビア人の大学生の依頼文を見ると、【依頼】が最初に現れることと、貸し借りを直接表す動詞ではなく、「私の分を払ってください」や「お金をください」などのように、依頼をする傾向があった。日本人の大学生は【依頼】という意味公式を依頼文の途中か最後に表す傾向があったので、サウジアラビア人の依頼に対し、直接的な印象を持つ可能性があると思われる。本研究では、談話完成テストを通し、データを収集したため、調査対象者に対するインタビューはできなかった。今後、ロールプレイを通し、日本人とサウジアラビア人の接触場面における問題点と相手の依頼に対する考察を進めていきたい。

## 6. 参考文献

アクドーアン プナル・大浜い子 (2008). 「日本語会話とトルコ語会話に見られる繰り返しとその応答について—依頼場面を中心として—」『日本語教育』, 137, 1-10.

Ayman Tawalbeh & Emran Al-Oqaily (2012).

*In-directness and Politeness in American English and Saudi Arabic Requests: A Cross-Cultural Comparison.* Canadian Center of Science and Education, 8(10), 85-98.

池田裕・三好理英子・村木万里子 (2002). 「中国語話者と英語話者の日本語における依頼—ロール・プレイによる発話データの分析—」『多摩留学生センター教育研究論集』(東京学芸大学) 第3号, 51-60.

張穎 (2004). 「依頼会話の展開パターンに関する日中対照研究」『言語文化と日本語教育』, 2, 88-14

徐孟鈴 (2007). 「依頼会話【先行部】の考察—日本語母語場面, 台湾人母語場面, 日台接触場面のロールプレイデータを比較して」『言語と文化』, 8, 219-238.

熊井浩子 (1992). 「外国人の待遇行動の分析—依頼行動を中心にして—」『静岡大学教養部研究報告人文・社会編』, 28巻1, 1-44.

- 李宜真 (2008). 「依頼の言語行動に関する日中語対照研究—ポライトネスの観点から—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』, **3**, 117-129.
- 李宜真 (2009). 「中国語での再依頼のストラテジー—相手との社会的距離に注目して—」『社会言語科学会、第23回大会発表論文集』 pp170-173.
- ルンティエラ ワンウィモン (2004). 「タイ人日本語学習者の「提案に対する断り」表現における語用論的転移—タイ語と日本語の発話パターンの比較から—」『日本語教育』, **121**, 46-55
- 柳慧政 (2004). 「日韓の依頼談話の対照研究—談話構成の面から—」『社会言語科学会第4回研究大会予稿集』, 196-199.